

# 4年生の皆様と、保護者の方へ

## 第2版にかえて(2014/4/1)

皆さま、こんにちは。弘中塾 塾長の弘中 崇（ひろなか たかし）です。

本日は、「4年生向け、通信教育講座」パンフレットを、ご覧頂き、本当に有難う御座います。

この度、本講座を、第107回歯科医師国家試験（2013年度実施、以下、国試と言う。）から、出題基準が変更された内容に呼応させる事を目的にして、同パンフレットも、2010年発刊当時の主文は変えず、大幅に加筆、訂正を行いましたので、ここに、ご案内申し上げます。

さて、数年前からの国試合格者数が、相対評価導入等によって、人数制に成った事を踏まえまして、学年毎の進級や卒業判定基準が、厳しさを増しております。この事は、全ての私立大学に該当し、その基準は、其々の大学で異成りますが、そこには、入学してからの早い段階で、自主退学を促したり、放校処分、除籍処分等をさせたりする事も、多いに含まれております。

その内容は、多種様々ですが、

### **前年度基準を下回る事は、絶対皆無です。**

一方、**厚生労働省が作成した、幾つかの資料にも有る様に、明らかに、将来に渡り、成績向上、出席率改善等が見込めない者に対しては、大学として、早期方向転換を、強く指導しなさいと、言及しています。**

**また、文部科学省の資料にも、最低修了学年(=卒業迄に、一度の留年も無い)の国試合格率を、様々な理由と観点から、入学定員率(=充足率)等と併記されており、私立大学間の順位が、如実・固定と成りました。**

勿論、私自身、この方針には、様々な意見が伴う事を承知しております。今日迄、この仕事を続けてきました中で、何年もの留年、国試浪人を繰り返している受験生は、全ての事が前進せず、結果、家族を厳しい状況に追い込み、保護者の命が削られる姿を見て来ましたし、言葉では言えない程の、壮絶で悲惨な事が起きています。本人からすれば、確かに、それを目的としているものではありませんし、全力で解決しようと考えていたのでしょう。

しかし、同じ過ちを何度も何度も繰り返すのは、只、過ちを、過ちと受け止めていないからで、この事に、一人の例外も居りません。こう云った現実から、私見ですが、将来の見込みが極めて厳しいと、過去の事例から判断出来る場合には、必ず方向転換をした方が良く、思っていますし、そうした方が、新しく、違った人生が、待っているのも、何も、この事に、殊更、執着するのは、甚だ、無責任で矛盾した姿勢なのではと、強い疑念を抱いています。

この様な方には、面談時に

- **何故、もう一年続けるのか。**
- **何故、安易に、その様な事が、言えるのか？**

今一度、お尋ねをしております。

更に、この場合、具体的に、入塾後の事では無く、国試浪人の事も含めて、全試験科目、卒業迄の年数と許される在籍年数の3つに重点を置き、過去の4年以上（⇒4年に一度、国試の試験委員が入れ替わる為、次に跨って考え、流れを掴む事が肝心です。）に渡る、国試の実情、歯科大学の現状と本音を、ご説明しています。

そもそも、累積の卒業生実数と国試合格者総数に大きな開きがあります。是からの時代、益々、この傾向が強くなる事は、至極自明なのです。現在、その開きに該当している人達は、一体、どうしているのでしょうか？在籍している、皆さんの大学で、何か、話を聞いた事はありませんか？或大学の卒業生名簿は、職業欄の半数が、空白と聞きます。恐らく、この事は、現在、7校位に言え、近い将来は、10校に拡大するでしょう。

しかし、それは、何故でしょうか？

確かに、根本的に、勉強方法計画が間違っていて、踏み込みも弱かったからでしょうが、それだけではない筈です。

突き詰めると、気持ちの何処かに、それを、直面している自分自身の事と捉えず、遠い景色を眺めている様な、他人事と受け止めているからなのです。

だから、自分に、必ず、その大きな波紋が来ますし、僕は、そう言う人を、本当に沢山見て来ました。

この事は、恐らく、是からも、この仕事を続けていく限り、続くでしょう。

**家族を巻き込んだ、壮絶で悲惨の極みに身を置く、その様な人達を、一人でも、少なくする手**

# 立ては無いものかと、今日迄、考え抜いた結果、 答えを出しました。

それが、

## 「4年生向け、通信教育講座」

なのです。

内容をご説明する前に、何故、4年生なのかを、申し上げます。  
理由は、2点あります。

- ① **今学年、CBTが実施される。**
- ② **現在は、卒業と国試対策に其々、絶対に、1年は必要である。**

先ず、①ですが、CBTと国試の双方が、国試なので、大学卒業時に受験する国試を2次試験と、位置付けるなら、このCBTは、正に、1次試験と考えて良いでしょう。

試験制度は、大学受験と同じ形態なので、このCBTが、不合格と成った場合、其処で、留年に成るのは、一次試験で足切りに成る事と同じですから、当然です。

仮に、CBTが何度も不合格に成るなら、大学側は、到底、その人物について、2次試験は、見込み無いと、判断しますから、退学の話を持ち出すでしょうし、仮に話さなくても、必ずそう考えています。

是も、当然です。

従って、

- ・何故、CBTが導入されたのか。
- ・CBTとは、一体、何なのか？
- ・CBTと、国試の相関関係は、どの様に成っているのか？

この3点を、しっかり把握しなければ、**漫然と、CBT対策をする事に成ります**ので、それから2年後、悲劇が訪れます。

突き詰めると、殆どの私大生は、自身が登る山(=試験)の状況を、驚く程、知らなさ過ぎるので、吹雪、暴風雨の中を、普段着で歩き、土砂崩れや遭難(=数回の留年、国試浪人)に成ってから、初めて、目を覚ましています。

そこから改めて対策を立てるのですから、その年に目標達成をするのは、絶対に不可能です。

それ程、受験は容易くありません。

確かに、国試の表看板は、資格試験なのですが、実態は、大学受験、司法試験と同じ、選抜試験ですから、合格者数が設定されている為に、

## 何点以上取れば、全員合格、とは成らないのです。

受験の本質は、正に、この一点にあります。

もし、今から 10 年前に合格して、それ以降、この試験から離れていたならば、その人は、過去の人で、最早、浦島太郎でしょう。僕が、この仕事に携わっていなければ、そうでした。是からの国試は、問題集や過去問集ばかりに比重を置く様な、受験テクニックを身につける事のみに終始しては、必ず、その年が、不合格に成る等のお話では無く、将来に渡り、受験そのものを断念する事に成ります。この事は、第 107 回歯科医師国家試験の合格者数から、はっきり出た結果です。

国公立出身の受験生が、卒業と同時に合格出来るのは、本物の受験を、小学校、中学校、或いは、高校で、必ず、絶対に経験しているからで、試験勉強の組み立て方や進め方が、既に、会得出来ているから、今更、慌てる事は、無いのです。

受験に対する姿勢が、根本的・絶対的に違うのです。彼らにとっては、この国試対策を受験勉強では無く、単なる、おさらいと考えているに過ぎないのでしょうか。

僕には、そう思えて成りません。

もし、

**自分は、この様な人達とは、全く違う、過去に本物の受験を経験した事が無いと、思っても、本物の受験を経験した人と共に勉強を進めていけば、十分に解決しますから、その為には、卒業から逆算して、丸2年が、絶対に必要なのです。それを守らないと、そ**

**の分、後ろに必ず、大きくずれ込んでしまいます。**

**この事は、忘れないで下さい。**

そう言う試験制度に、生まれ変わったのです。

現在の開業医は、1,500 医院が、一年間に倒産して、その予備軍が、4 倍あると、聞きます。総計、毎年、7,500 医院が、生死の分岐点に立たされているのです。開業すれば、受験生の様に、教科書を広げて、正解を見出す事は、出来ません。教科書そのものが、何処にも無いのです。

一日、一日が、決断と勝負なのです。

一年に一回、選択肢から正解を選ぶ試験とは、全くレベルの違う、お話なのです。

少し、見方を変えれば、教科書から、正解を見出す事すら出来ずに、今の社会で、何が出来るのでしょうか？

正に、

**受験生としての、根本的な義務を果たす意思が有るのか否か、お尋ねをしなくては成らない。**

以上の事から、先ずは、今年度の C B T 対策を、しっかり進めていき、来年度から始まる、登院実習時に、休む事無く 2 年計画で進め、留年無しの卒業・国試合格を目指す事が必要です。

もし、5 年生時に休み、6 年進級時から始めたなら、絶対に間に合いません。

必ず、1 年以上遅れます。

そこで、皆さんに強くお願いしたい事が、2 点あります。

それは、

**・絶対に、卒業迄、留年をしない。**

**・卒業時に、国試合格する。**

です。

合格が、現役生優先 (**合格者数の 70% が現役生に振り分けられている。**) の試験制度なので、

卒業時が一番良いのです。私立歯科大学生（特に、上位1+5校以外）は、後半3年間を、実質、卒業・国試対策と考えて丁度です。

此処迄、大変、厳しい事ばかり、お話してきました。しかし、貴方が、この事を念頭に置くか否かで、6年進級時、別人になれるか、その儘なのか、大きな違いが出てしまうのです。

どちらが良いのか、では無く、前者で無くてはいけないのです。この事は絶対です。

## I. 国試に合格する為、知って欲しいポイントが、3つあります。

①現役生優先の国試に生まれ変わっている事を理解して下さい。

②近年、各学年で、留年や放校処分を受ける学生が急増している事を理解して下さい。

③国試合格者の内訳には、実力の点から、**国公立**と**私立上位6校**が、固定数をもっている事を理解して下さい。

以上の事を念頭に置いて、卒業時、国試合格を絶対目標にして下さい。

では、先ず、何故、国試合格者数をどんどん削減していくのかについて、説明します。

実は、厚労省は、「歯科医師数を、是以上増やす必要は無い。」と、明確に発表しています。現在、歯科医師は、国内に10万人いると言われていますが、毎年、その1%強（推定1,200人）が、現役を引退しています。更に、歯科医院は、コンビニエンスストアの2倍（実際は、3倍弱と推測されています。）もあり、過剰です。歯科医師の5人に1人は、年収300万円以下と言った、厳しい分析もあります。この状況に、厚労省は、毎年、引退する1%強分だけを補充すれば良いと、考えています。

更に、人口減少の時代に入ったので、その減少に呼応して、歯科医師数も減らして良いと、結論付けています。つまり、厚労省は、歯科医師数を、現状維持から、減少に移行させる政策を決めており、

**国試合格者数を、最終的に1,200人**程度にすると、発表しています（平成18年資料、因みに、第107回は、2,025人でした）。しかし、翌年、1,200人迄減少させると、色々な問題が噴出するので、是からの傾向として、毎年、400人前後減らそうとするのが、実情です（予想値）。それを踏まえ、皆さんが受験する年度の国試合格者数は、1,300人前後ではと、予測しています。

## II. 合格が、現役生優先に生まれ変わった国試

先程、お話した様に、厚労省は、大きな社会問題と成っている、全国の歯科医師数を何とかしようと考えています。では、何処から歯科医師数を削るのか？答えは、正に皆さんです。是から歯科医師に成る人達を、他に、色々方針はありましたが、最終的に、国試合格者数で削るしか、方策が無いのです。

では、合格者から減らす場合、誰から順番に不合格にするべきか、考えた事がありますか？是も、簡単です。「国試浪人」です。厚労省は、言っています。「何度も受験をしている浪人生より、現役生を優先するべきではないか」と。下記に受験回数別合格者数一覧表がありますが、見て欲しい数字があります。現役生合格者1,642人に対して、浪人生の合格者数が383人います。この比率は、丁度、**80対20**に分れています。是は、たまたま、結果として**80対20**に分れたのでは無く、**意図して、**

合格者を現役から80%、浪人から20%と成る様に、振り分けられていると云う事なのです。因みに、この数値は、今年度に限った話では無く、毎年度、同じ比率で合格者が発表されています。つまり、如何に現役の内に合格出来るか。この一点が、大きな鍵と成っているのです。

### Ⅲ. 最近、留年、放校処分、再入学該当者になる学生が激増していませんか？

厚労省の考えにより、国試合格者数を下げる事は、もう約束されていますが、この事実に、大学は、何を考えているのか、分りますか？もし、皆さんが、大学側の立場なら、この“合格が困難に成った、そして、是からも続く国試の現状”に対して、どの様な対策を取りますか？大学を運営する立場として、やはり大事なものは、大学への入学者数、つまり、授業料では無いでしょうか？

我が大学に入学して貰うには、「国試合格率を上げる」、是は、誰もが気にする処です。皆さんも、大学受験の際、受験校を決める重要なポイントだったと、思います。合格率を上げたい、そして、入学者数を増やしたい、是が、大学側の想いでしょ、合格率の高い大学へ行きたいと、切望するの、受験生側の想いです。

処が、合格率は、年々下がり、前年度を上回らせる事は、本当に至難の事です。この現状について、大学側は、考えたのでしょうか。「国試合格の可能性が低い学生は、無理に受験させても、本学合格率を下げるだけである。であれば、留年させて、力を付けてから、受験させた方が良い。それでも、見込みの無い学生は、退学を促した方が・・・」こうして、近年、留年、放校処分、再入学該当者になる学生が、激増しているのです。(⇒厚労省も、進路変更を促しています。)この事実は更に、本来、試験に失敗して浪人生になるであろう人達が、試験を受けずに留年した為、今年は、現役生として受験する、つまり、試験で優先されやすい現役受験者数が増加する、と云う事なのです。現役生にとっては、『留年した現役生』が加わった人数で、試験を乗り越えなくては成らないのです。

### Ⅳ. 実力の点で、国公立と私立上位1+4校で、約800名の椅子が、確保されている。

この話を聞くと、多くの学生や保護者の方が、「えっ？ 本当ですか？」と、言います。実際、国公立大学**現役生**の合格率は、毎年変わらず、概ね90%で、国試全体の合格率が下がり続けても、無関係なのです。と云う事は、全12校の国公立大学で、12大学×60人×85%=612人は、既に指定席として確保されていると、考えなくてははいけません。是は、私立上位5校(実際は、1+4校)にも当てはまります。その5校は、合格率が、70%と成っており、①東京歯科大学②日本大学歯学部③昭和大学④愛知学院大学⑤日本歯科大学生命歯学部で、5大学×120人×70%=420人も、指定席として確保されています。両者を合計すると、1032人(ここでは、圧縮して800人としましょう。)は、合格が決まっているのです。もし、皆さんが、私立上位5校以外の場合だったら、どうなるのでしょうか？仮に、国試合格者総数が2,000人として、現役生は、2,000人×70%(現役枠)=1,400人で、国公立と私立上位5校を除くと、1,400人-800人=600人の椅子が有る事に成ります。是を、残り12大学×120人=1,440人の現役生と800人の留年生(推計)とで競い合うので、

合格率は、 $800 / (1,440 + 800) \times 100 = 35.7\%$ と成ります(推計上位35%以内しか合格できないことと同意)。皆さんが在籍している大学如何で、是程、シビアな国試に成っているのかと、この数値から分って貰いたい、現実の事なのです。ですから、卒業判定で、相当絞り込まないと、その大学では、国試合格率が、向上しないとなり、翌年度の入試志願者数に直結して、欠員と助成金の問題が出て来ます。従って、今の学生は、大学の入り口と出口をセットで考えないといけないので、苦しい気持ちが続くと、推察します。

卒業時成績が、上位30%以内でなければ、国試合格迄、到達出来ない(卒業して、その年、合格通知を持って帰る意味から、往復切符と称しているそうです。)と、大学側は、保護者会等で説明していますが、それは、上記に基づいている計算をしているからではと、推測しています。

実際、全私大の6年進級時人数を100とした時、往復切符は45、残り55の60% (=33) が、方向転換をして、22が、来年度限定での猶予を、保護者と約束して勉強を進めています。あくまでも、現役生限定のお話ですが、国公立は、下位2%の不合格、私立上位5校は、下位25%が不合格、それ以外の私立は、上位20%が、国試合格安全圏と、成っているのです、冷静に勉強法を組み立てて、進めなくてははいけません。国試合格者数が、削減されていけば、一番影響の出る部分は、何処なのか、忘れないで欲しいです。

## V. 現役合格する為に、必要な「勉強法」とは、何か？

私は、この10年近くにわたり、国試に携わっておりますが、ここ数年前から非常に厳しい試験に変わってきている事を、痛感しています。それは、現役優先の試験に成った上に、是からは、更に、現役生の中でも、上位40% (学年順位を参考にした場合で、全国模試なら、1,300番前後)) に入らなくては、合格は、その年、厳しいと言える様に成りました。仮に、それ以下の成績ならば、もう一年必要ですが、それが、現役生としてなのか、国試浪人としてなのかは、難しい視点です。

では、現役4年生の皆さんは、是から、どの様に考えていけば良いのか？  
私が、今日迄、国試を見てきて、絶対に守って貰いたい、とても重要な事が、2点あります。

① 是からの国試に対応出来る、適切な勉強法で進めて、留年は決してしない考えでいる事。(留年生の国試合格率は、およそ、8%)

② 5年生からの2年間で卒試・国試対策と考え、適切な時期に、適切な順番で科目を勉強して貰う事。(時期/科目の鉄則)

以上の2点です。

この近年、何故？あの成績優秀者が落ちるのか？と云う受験生から、当塾に多くの問い合わせを頂く様に成りました。実際に、お話を聞いてみると、上記の2点で、どちらかが欠けていた事が、分かりました。受験生の斎木さん(仮名)は、勉強の仕方は、非常に丁寧で申し分無かったに、試験勉強を始めた時期が、6年生からと遅かった為に、国試迄に必要な科目を全てカバー出来ず、点数が思う程上がりませんでした。もう半年でも早く始めているだけで、現役合格は、出来ていたでしょう。

一方、山岡さん(仮名)は、一日に13時間程度と、非常に勉強量が多かったのですが、勉強の仕方に間違いがあった為、後半、点数が伸び悩んでしまいました。是だけ、机に向かって、勉強に時間を割いてきたのであれば、進め方一つで、結果は、全然違っていただろうと、思います。翌年、二人とも、合格しましたが、ほんのちょっとしたポイントを知っていればと、残念で成りません。

この二人が象徴している様に、正しい勉強法で5年生から始める事で、国試が本当に楽に成る手応えを、私は実感しています。それでなくても、試験直前と成れば、気が立ち、焦りが出て、勉強が手に付かなくなる受講生を何人も見て来ました。勿論、このパンフレットを読んでいる皆さんには、そうなって欲しく無いのです。

どの様な卒業判定や国試合格者数に成っても、時期と科目を間違わなければ、必ず、合格出来る試験なので、早い者勝ちではなく、そもそも、時間が必要な試験と、実感して下さい。



その様な思いから、是非、私と、面談か電話相談をして欲しいのです。  
そして、必ず突破出来る国試を、必ず、乗り切ってください。

最後に成りますが、一つ申し上げます。

1980年代のアメリカで、相当数の歯科大学が、廃部と廃校に成り、法改正を繰り返して、単科大学の設置を認めなくなり、総合大学のみにと、成りました。恐らく、過剰の歯科医師数を削減して、人口に見合ったものにする政策にしたのでしょう。それ以降は、皆さんご存知の通りです。来日した、欧米の教授陣は、口を揃えて、国試合格者数は、翌年度に目標値にもっていかないと、徐々にでは、後年程、不公平感がでてしまうと、話していますが、日本の風土と思想を考えれば、少しずつが、国民に馴染んでいくので、やはり、欧米の様には進めないでしょう。

私も、その方が、将来、とても強固な土台になると、感じています。

以上、お読み頂きまして、誠に有難う御座いました。

次に、本講座の内容についてです。

CBT 対策をメインとしていますが、5年生からの勉強をスムーズにする為の下地作りも含まれています。

皆さんがお持ちのテキスト、教科書、資料等は、卒業時迄使用出来ますし、特別な考え方、組み立て方、テキスト等は、一切要りません。

## 履修科目

- ・ 人体解剖学／口腔解剖学
- ・ 組織学／口腔組織学
- ・ 生理学／口腔生理学
- ・ 歯科薬理学

第1回目  
発送分

- ・ **歯科理工学**
- ・ **病理学／口腔病理学**

第2回目  
発送分

・ 口腔生化学

- ・ 口腔微生物学
- ・ 歯科放射線学（前半の物理分野）
- ・ 口腔衛生学
- ・ 衛生・公衆衛生学・社会歯科学

第3回目  
発送分

・ 補綴学（三教科）⇒

（全部床義歯学、部分床義歯学、クラウンブリッジ補綴学）

・ 保存学（三教科）⇒

（歯内療法学、歯周病学、保存修復学）

第4回目  
発送分

- ・ 小児歯科学・歯科矯正学
- ・ 口腔外科学（含歯科麻酔学）
- ・ 歯科放射線学（後半の診断学分野）

第5回目  
発送分

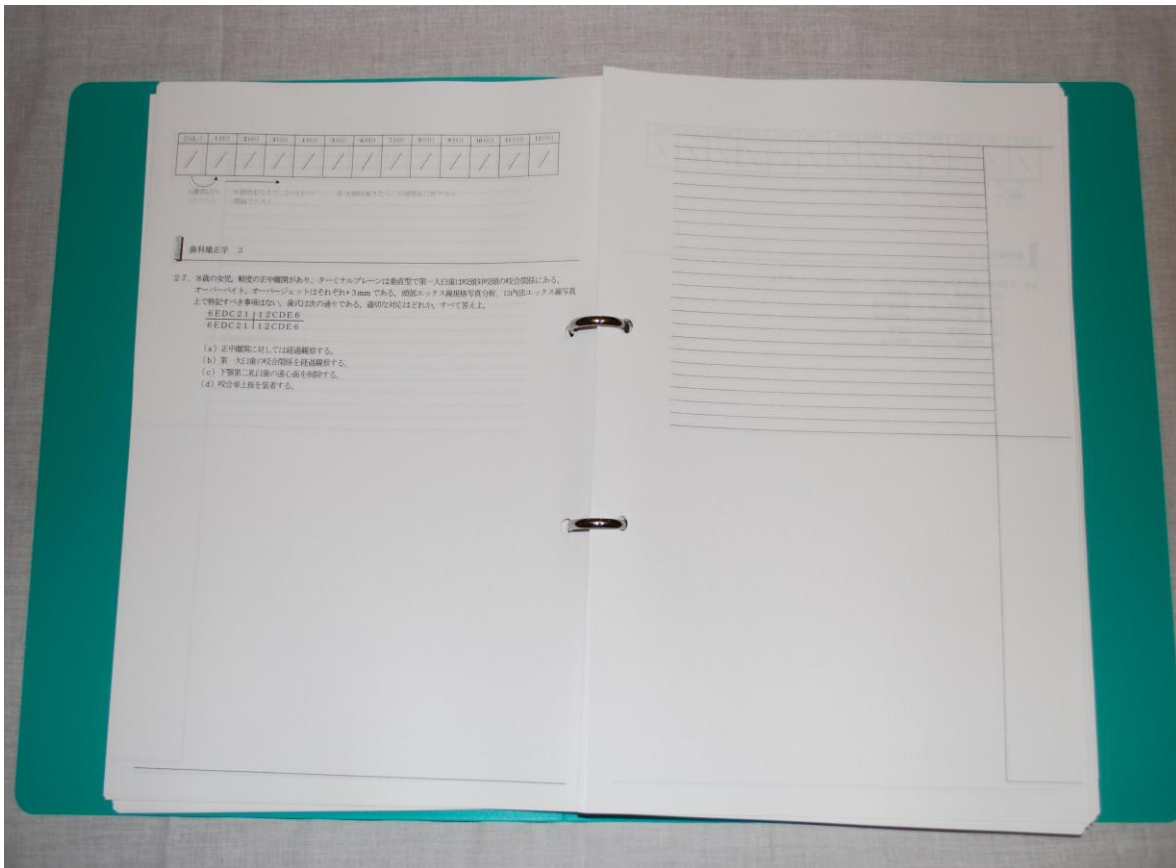
各回発送のテキストについては、全問題に対する解答を既述形式にしました。そうすることで、試験当日の CBT に出題される全選択肢を、数十秒で正誤出来る判断力に向上出来ます。この方法は、卒業と国試にも通用します。ですから、過去問の肢ばかりに着目しては、肢の周辺が翌年出題された場合、全く対応出来ず、「過去問は出来るのに、オリジナルに成ると・・・」と云う事にしか成りません。

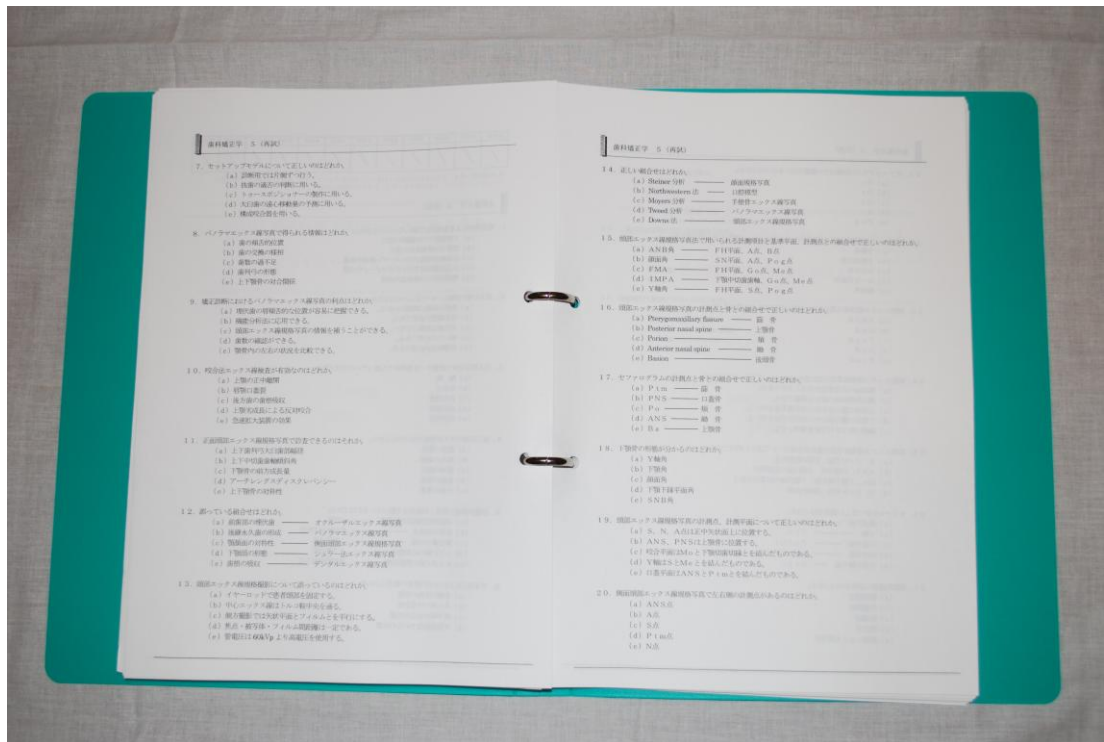
この事は、国試多浪が、明らかにしています。

先人の例を頭に焼き付けて、今を大切にしてください。

## 【 本講座の内容について 】

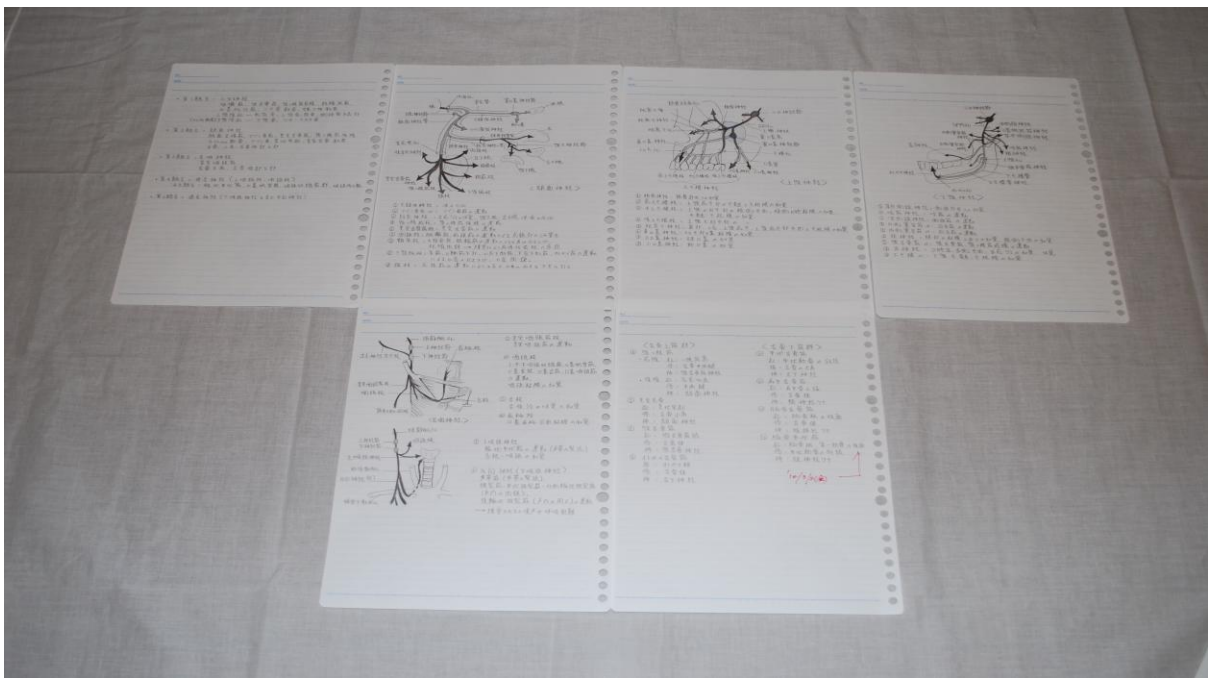
1. 1回発送分当り、20～40枚位の添削ページ（科目毎で前後しますので、是以上もあります。）
  - 1～5回発送の添削ページには、穴が開いたものを使用して、（ファイルが出来るようにする為）用紙が足りなくなった場合は、各自ダウンロード出来る様に成っています。





(注)

1. 携帯電話（スマートフォン、タブレット）しか持っていない人は、1 回目発送時に、その旨をお伝え下さい。
2. 塾長が、各回発送時に行われる電話サポートを、**全て**担当します。（Skype で、塾長 ID は、受講開始時にお伝え致します。各回共に 30 分/回）。
3. 各回発送時に行われる電話サポートでは不足した場合、メールにて受け付けます。返信は、3 日以内に必ず返信いたします。
4. CBT 対応型、単年度卒業一國試合格完全管理体制を行います。
5. 初回発送時、弘中式勉強法（PDF にて送ります）と合格率 現役>1 浪>2 浪>・・・を細かく説明しました、オリエンテーション DVD を同封します。
6. 各問について、解説作りを進め、5 年生以降に繋げていく事を目的に、総計 200 問位の 4 肢選択問題演習を行います。
7. 受講料 ¥720,000.-。その他オプション、オプションにかかる費用は別途、申し受けます。いかなる理由でも、一度お納め頂きました受講料は、返金致しません。



以上です。